

■英国：今冬の予備力は約 6%まで減少する見込み

英国の系統運用者である National Grid は 2013 年 7 月 2 日、2013 年度冬季の予備力が約 6%まで減少するとする見通しを示した。この予備率は、今冬が平均的な需要であり、かつ風力発電所が過去実績程度の利用率で発電するとした場合の見込みである。同社は、風力発電の発電量が想定よりも低い場合には更に予備力がタイト化し、予備力は 3%程度になると想定している。また、英国では、EU の大規模燃焼施設指令 (LCPD) によって、1,000 万 kW 超の老朽火力が (1) 2015 年末まで、もしくは (2) 2008 年以降の運転時間が 20,000 時間に到達の場合（いずれか早い方）に閉鎖することとなっている。至近の石炭価格と排出枠価格の低迷を受けて、石炭火力発電所の利用時間が伸びており、National Grid は今冬前にはいくつかの対象発電所が閉鎖されると見ている。